

報告書

2016タイ遠征

Thailand Junior & Cadet Open

ITTF GLOBAL JUNIOR CIRCUIT PREMIUM EVENT

2016. 5 / 9 ~ 5 / 16



主催 (公財) 全国高等学校体育連盟卓球専門部

大会スナップ





平成28年度全国高体連卓球専門部海外遠征 [タイジュニアオープン]

1. 大会名 2016 タイジュニアオープン大会
2. 大会期日 平成28年5月11日(水)～5月15日(日)
 *集合 5月9日(月) 関西空港利用者 9:30
 成田空港利用者 9:00
 5月8日(日)前泊(希望者のみ) 空港付近で宿泊先調整中
 *解散 5月16日(月) 関西空港利用者 7:30
 成田空港利用者 8:30
3. 会場 「Fashion Island, Island Hall3rd Floor」
 587, 589, 589/7-9 Ramintra Rd.
 Kannayao, Bangkok, Thailand 10230
 Tel +662 947-5000
4. 宿泊先 「The Grand Four Wings Convention Hotel」
 333 Srinakarin Road, Huamark, Bangkok, Bangkok 10240
 Tel +662 378 8000

5. 日程 *日程については変更が生じる場合があります。

1	5/9(月)	9:30	関西空港利用者 集合
		11:45	空港発 TG-623 便
		15:35	バンコク スワンフーム国際空港着
		9:00	成田空港利用者 集合
		11:00	空港発 TG-641 便
		15:30	バンコク スワンフーム国際空港着
2	5/10(火)		練習
3 ～ 7	5/11(水) ～ 15(日)		大会 団体・シングルス
		23:30	バンコク スワンフーム国際空港発 関西空港行 TG-622 便
		23:50	バンコク スワンフーム国際空港発 成田空港行 TG-642 便
8	5/16(月)	7:00	関西空港着、解団式、解散
		8:10	成田空港着、解団式、解散

6. 役員・選手名簿

役職	氏名	所属	備考
団長	河野 正和	上宮高等学校	
総務	塚田 博文	長野工業高等学校	
男子監督	植木 大	遊学館高等学校	
女子監督	田代 祐大	山陽女子高等学校	
男子選手	五十嵐 史弥	遊学館高等学校	
	伊丹 雄飛	野田学園高等学校	
	葉波 啓	鶴岡東高等学校	
	大西 尚弥	愛工大名電高等学校	
女子選手	梅村 優香	四天王寺高等学校	
	木村 光歩	山陽女子高等学校	
	馬場 麻裕	芦屋学園高等学校	
	井 絢乃	明德義塾高等学校	

平成28年度全国高体連卓球専門部海外遠征結果

ITTF Golden Series Junior Circuit
 ★SET 2016タイジュニア&カデットオープン★
 (2016.5.10-16、バンコク)

男子団体 3位
 女子団体 優勝
 女子シングルス 木村光歩 3位

○男子団体

予選リーグ

日本 3-0 スウェーデン
 日本 3-0 タイB
 日本 3-2 シンガポール

(グループ1位通過)

決勝トーナメント

準々決勝
 日本 3-1 韓国A
 ITAMI Yuhi 3-1 SONG Junhyun
 IGARASHI Fumiya 3-1 BAEK Hogyun
 ONISHI Naoya 3-1 KIM Suhwan
 IGARASHI Fumiya SONG Junhyun
 ITAMI Yuhi BAEK Hogyun
 準決勝
 日本 2-3 チャイニーズタイペイA
 IGARASHI Fumiya 1-3 HUANG Chien-Tu
 ITAMI Yuhi 3-2 CHEN Chun-Hsiang
 HANAMI Kei 3-2 CAI Ruei-Fong
 ITAMI Yuhi 1-3 HUANG Chien-Tu
 IGARASHI Fumiya 1-3 CHEN Chun-Hsiang

○女子団体

予選リーグ

日本 3-0 タイA
 日本 3-0 韓国B
 日本 3-0 香港

(グループ1位通過)

決勝トーナメント

準決勝
 日本 3-0 シンガポール
 UMEMURA Yuka 3-0 ZHANG Wanling
 KIMURA Mitsuho 3-0 ANG Wan Qi
 I Ayano 3-0 TAN En Hui
 UMEMURA Yuka ANG Wan Qi
 KIMURA Mitsuho ZHANG Wanling
 決勝
 日本 3-1 チャイニーズタイペイA
 UMEMURA Yuka 3-0 KUO Chia-Yun
 KIMURA Mitsuho 2-3 FANG Sih-Han
 BABA Mayu 3-1 CHIEN Tung-Chuan
 KIMURA Mitsuho 3-1 KUO Chia-Yun
 UMEMURA Yuka FANG Sih-Han

○男子シングルス 予選リーグ

予選	伊丹雄飛	3-0	PANAGITGUN Yanapong (タイ)
	3勝0敗	3-0	SALMI Mohamad Syazwan (マレーシア)
	(1位通過)	3-0	HUANG Yan-Cheng (チャイニーズタイペイ)
予選	五十嵐史弥	3-0	HUANG Dominic (オーストラリア)
	3勝0敗	3-0	VAHNISH Jacobo (パナマ)
	(1位通過)	3-0	VERAKULTAWAN Purit (タイ)
予選	葉波啓	3-0	KIM Suhwan (韓国)
	3勝0敗	3-0	PRINTZ Alexander (スウェーデン)
	(1位通過)	3-1	PUANGTHIP Sirawit (タイ)

第2ステージ

2回戦	伊丹雄飛	4-2	WATTHANASIRICHAIPORN Suppakor (タイ)
2回戦	葉波啓	2-4	SONG Junhyun (韓国)
2回戦	五十嵐史弥	4-0	TAY Ming Han Maxxe (シンガポール)
3回戦	伊丹雄飛	3-4	PASSARA Pattaratorn (タイ)
3回戦	五十嵐史弥	3-4	HUANG Chien-Tu (チャイニーズタイペイ)

○女子シングルス 予選リーグ

予選	木村光歩	3-0	WONG Chin Yau (中国香港)
	3勝0敗	3-0	TEY Ka Ying (マレーシア)
	(1位通過)	3-0	PORAYA Sasithon (タイ)
予選	井絢乃	3-0	CHOOSATTAYANOND Thanathnan (タイ)
	1勝2敗	0-3	KIM Youjin (韓国)
	(3位)	2-3	LEUNG Ka Wan (中国香港)
予選	馬場麻裕	3-0	LAWSIRIRATTANA Thanatporn (タイ)
	2勝1敗	2-3	WEE Yeji (韓国)
	(2位通過)	3-0	KOH Kai Xin Pearlyn (シンガポール)
予選	梅村優香	3-0	WONG Amanda (マレーシア)
	3勝0敗	3-1	POUNGSRI Cathareeya (タイ)
	(1位通過)	3-0	JUNG Dana (韓国)

第2ステージ

1回戦	馬場麻裕	4-0	BYUN Seoyoung (韓国)
2回戦	馬場麻裕	2-4	MAK Tze Wing (中国香港)
	木村光歩	4-2	CHOI Sukyoung (韓国)
	梅村優香	1-4	KIM Youjin (韓国)
準々決勝	木村光歩	4-1	SHIN Yubin (韓国)
準決勝	木村光歩	3-4	MAK Tze Wing (中国香港)

2016 タイジュニアサーキットに参加して

総務 長野工業高校 塚田 博文

5月8日～16日までの日程で、タイの首都バンコクで行われた世界ジュニアツアーに総務担当として参加させていただきました。監督、選手がベストコンディションで大会に臨み、好成績を収め、無事日本に帰国できるよう、細心の注意を払いながら行動していました。以下、行程をまとめます。

5/8 時間と経費の節約のため、成田空港と関西空港の2班に分かれて出発するプランを立て、夕方それぞれの空港近くのホテルに集合し、ミーティングを行う。

5/9 成田から6時間30分、大阪からは5時間30分のフライトで、男女各4選手、スタッフ4名計12名が、無事バンコクスパンナム空港に到着し、現地スタッフの車でホテルに移動し、団結式を行った。団長の河野先生から『健康管理に注意をし、日本代表選手としての自覚をもって戦って欲しい』との挨拶をいただく。

5/10 午前、ナショナルトレーニングセンター内にある卓球場で練習。クーラーは無くサウナ状態で、空調設備の整った中で練習を行っている日本選手にはかなり過酷だったが、タイのナショナルチームは、この場所で日々練習をしているとのことで、ビックリ。午後、大会会場に移動し、監督・選手は会場練習、私はドロー会議に出席したが、会議は全て英語で通訳無し。カルチャーショックを覚え、もっと英語を勉強しておけば良かったと、深く後悔した。体育館は、ファッションアイランドという大型商業施設の3階にあり、日本食の店も多くあったので、当初懸念していた食事・飲み物などの問題は何ら心配しないで済んだ。



5/11 団体予選リーグが行われ、男子はスウェーデン・タイB・シンガポールと、女子はタイA・韓国B・香港と同じリーグで、男女ともに全勝し、決勝トーナメント進出が決定した。

5/12 男子決勝トーナメント準々決勝は韓国Aに3-0で勝ったが、準決勝ではチャイニーズタイペイAに2-3で惜敗し3位。女子は準決勝でシンガポールに3-0、決勝はチャイニーズタイペイに3-1で勝利を納め、見事優勝した。特に決勝戦では、的確な監督采配と男子も応援に加わり、選手・ベンチ・ギャラリーが一つになって戦えたことが勝利の要因と言える。

5/13 シングルス予選リーグが行われ、男女3名が翌日の決勝トーナメントに進出決定。

5/14 シングルス決勝トーナメントに進出した選手は、男女ともに誰が優勝しても不思議でないくらい、実力が均衡していた。勝敗を左右したのは、夜8時から冷房が止められたことにより、場内の湿度が上がり、日本選手は思い通りのプレーが出来なくなったことが悔やまれる。最終日に駒を進めたのは、女子の木村選手だけとなった。

5/15 木村選手は、準々決勝は勝ったが、準決勝で優勝した香港の選手に3-4で惜敗した。表彰式に参加した後、一端ホテルに戻り、荷物をまとめすぐに空港に行き、夜11時発のタイ航空で日本に向かい、翌朝7時頃成田と大阪にそれぞれ到着した。

この遠征に際して（公財）日本卓球協会・各メーカー・高体連卓球専門部強化委員会並びに、帯同していただきお世話になった河野団長・植木監督・田代監督、そして多くの感動を与えてくれた選手達に御礼申し上げます。

バンコクに着いて、やはり気温の暑さと湿度の高さには驚きました。練習会場にはエアコンが無かったことで、40度を超える環境での練習になりました。選手は大変だったことと思います。しかしながら、ジュニアサーキットにしてはホテルや食事などの環境が整っているなど感じました。試合会場がショッピングモールの中にあり、その中に日本企業が多く出店していたこともあり、日本と変わらない食事をするのが出来ました。海外試合において食事のストレスが無いことは嬉しい限りでした。



試合では、団体戦において優勝を目指していましたが残念ながら3位でした。国内では堂々とプレーをしていた選手ですが、国際大会では緊張が見られ硬いプレーが見られました。個人戦においては、徐々に肩の力も抜け良いプレーが見られましたが、思わぬ敵が潜んでいました。毎日の第一試合と最終戦は湿度との戦いでした。第一試合ではエアコンの効きが弱く、最終試合ではエアコンが切られてしまうため湿度が高くなるのです。日本では経験が出来ないほどの湿度で思うようなプレーが出来ませんでした。ただし、条件は他国も一緒なので精神面での強化が必要でしょう。また、技術的にはどの選手もサービスの工夫が大切だと感じました。選手には遠征の経験を生かし、インターハイなどで活躍して欲しいと願います。

最後にこのような経験をさせていただいた全国高体連卓球専門部を始め、一緒に帯同していただいた河野先生、塚田先生、田代先生に感謝申し上げます。有難うございました。



この度は、2016 タイジュニアサーキット大会の女子監督に派遣して頂きありがとうございました。監督として、海外での国際大会が初めてだったため不安が大きかったですが、団長の河野先生、総務の塚田先生、男子監督の植木先生に助けられ、とても貴重な経験をさせて頂くことが出来ました。



日本では考えられない国際大会ならではのことがいくつか起こりました。一つ目に、停電。二つ目に東南アジアの気候の高い環境、そして試合会場との温度差。試合会場はかなり冷房が効いていたのですが、空調の風が試合に影響するほどの強さでした。三つ目に、試合日程。初日から終了時間が9時を過ぎ、団体戦の決勝終了後表彰式も行われ、ホテル到着が11時という過酷な日程で行われました。尚且つ、試合と試合の間の待ち時間が長く、集中力の持続、気持ちの切り替えの難しさも身をもって経験することができました。

しかし、ホテルは広く綺麗な部屋で、食事も他国とは違い日本食も食べることが出来たので、さほどストレスを感じることはなかったと思います。ただ、選手達は連日の夜遅くまでの試合をこなしていたため、日に日に疲労が蓄積していっていました。

試合結果は、女子団体で優勝。初戦から競る場面もありましたが、持てる力を十分に発揮しての優勝でした。個人戦は予選リーグで梅村、木村が順調に予選を1位抜けしましたが、井が韓国の選手と香港の選手に競り負け予選リーグ敗退、馬場が予選リーグで韓国選手に負けはしたものの予選を2位通過しました。決勝トーナメントでは、梅村が韓国のカットマンに敗れ、馬場と木村が優勝した香港の選手に敗れ個人戦は満足のいく結果ではありませんでした。

今大会に参加して、今後より一層世界に目を向けて努力する必要があると感じました。

不測の事態が起きても対処できるようリスクマネジメント、語学力の上達、そして技術ではサブ力、レシーブ力の向上、プラスチックボールへの変更による決定打の重要性、ラバーの性質に慣れられた時の引き出し、連日の過酷な日程でも最後の最後まで全力でプレーできるフィジカルが課題だったと感じます。今後、この部分を各個々の選手たちが母体で課題克服し、成長に繋げていってほしいと思います。



最後になりますが、団長の河野先生、

植木先生には高体連だけでなくナショナルチームでの長年の経験から世界で戦うためのお話をして頂き、深く感謝しています。また、総務の塚田先生には色々なことにわたり気遣いなど配慮して頂き、安心して遠征を行うことができました。

今回の遠征を活かして、参加した選手達が日本卓球界を担う選手になってほしいと願っています。

今回はタイのジュニアサーキットに参加させていただきました、ありがとうございました。タイはすごく暑くてびっくりました。ホテルの環境は今まで泊まったなかでも1番良くて食事もおいしく食べることができました。

団体戦は全試合に出させていただきました。1番に出ることが多かったのにしっかりと準備することができなくて、チームの雰囲気悪くしてしまう内容でした。自分は勝つことを意識しすぎると力が入ってしまい1本のミスに気にしてしまうので、まずしっかり自分のプレーを引き出すことだけを考えて試合をしたいです。

個人戦は全体的に良い内容の試合が出来ました。スイングも初日に比べて良くなってきました。8決定でタイペイの選手と対戦して3-4で負けてしまいました。相手は自分に攻めさせる戦術があったのですが自分は攻めることに精一杯で勝負どころを勝ちきることができませんでした。これからは相手に打たせてからの戦術も練習していきたいです。



今回の遠征では、多くの戦型の選手と試合をすることが出来ました。特にカットマンと試合をして勝つことが出来たので良かったです。今回の遠征で一番大切だと感じたことは、サーブ・レシーブです。今大会は、カーブが台から出てしまう場面が非常に多くなってしまい、相手にループされてからの展開が多くありました。海外の選手は回転量が多いので、台からサーブが出てしまうと、上手く流れを引き寄せられない状況が続いてしまいました。レシーブに関しても、ストップが台から出てしまったり、チキータを狙われて得点されることが多かったです。

最後に、もっと対応力をつけないといけないと思いました。球質、スピード、戦型など、自分のやりやすい相手もいるけど、やりにくい相手も必ず出て来るので、やりにくい相手と試合している時も自分の基本的なプレースタイルの土台を崩すことなく試合が出来るようにならないといけないと思いました。多くの課題が見つかってよかったです。



今回の遠征に参加させて頂いて感じた事は打たれたボールに対して打ち返していく事の精度が大切だと思いました。レシーブからラリーする時のほとんどが相手に打たれてから始まります。そのボールを曲げて入れるなどの工夫が必要だと思いました。次に大切だと思った事はレシーブです。レシーブから先に低いボールを打つ事が出来れば相手は強く打つ事ができません。そのような低いボールを出してから自分の展開に出来るようにしていきたいと思います。

今回の遠征に参加させて頂くために協力して下さった方々に感謝をして、学んだ事を活かしていきたいと思います。この後、インターハイなどの全国大会がありますが、そこで今回の大会で学んだ事を発揮して行きたいと思います。この大会に参加できたという事は特別な事だと思います。その事に対して感謝をして、次の大会に向けて一日一日を大切に、努力していきたいと思いました。



今回のタイ遠征に参加して、外国の選手の卓球を身をもって感じる事ができた。その中で特に強い選手を見て感じたのは、まずサーブがとてもうまい。必ず三球目に攻撃できるような次につながるサーブを出している上に、回転も強く、わかりづらい。それともう一つはミスがとても少ない。凡ミスはもちろん、三四球目までミスすることがほとんど少ない。この点は特に見習うべきだと思った。逆に日本選手の方が上回っていると思ったのは、考え方だ。外国人はすぐ態度に出たりマイナス思考になったりするが、外国人に比べて日本人はそういうことが少なかった。当たり前のようなことだが自分たちが見習われるようなところもあるのだと感じた。



結果はうまくいかないことが多かったが、実際に打ち合っ、見て、他の人ではできないような経験をする事ができた。このタイ遠征で感じたことを今後の自分の卓球人生に生かして、次のステップへ進んでいきたい。

今回初めて国際大会に出させてもらって色々な人のボールを打つ事ができ、とても勉強になりました。日本以外の国の選手はパワーもあって少し日本とはタイミングが違う人ばかりでした。ドライブがすごくかかったのをとると重みを感じました。

海外の試合では電気が消えたり、冷房が消えたり日本ではありえないことが普通にあってそこで流れが悪くなってしまっ逆転されて負けてしまうこともあるのだろうなと思いました。自分は6月にワールドツアーでオーストラリアに行くので今回学んだ事を活かしていい成績が出るといいです。海外で自分の卓球は通用すると今回の試合で思いました。でも課題や反省はたくさんあるのでしっかり反省して次につなげたいです。カットマンの人とやった時にまだまだ自分はカット打ちの変化とかわかっていなくてカット打ちがすごく下手くそだと改めて思いました。河野先生に言われた事を忘れずにこれからの練習を頑張ります。



タイ・ジュニアサーキットに参加させて頂いて、たくさんのお話を学びました。そしてたくさんのお話を聞きました。1つ目の課題は、外国人選手はパワーと回転量があるので、その時にあまり変化をつけてブロックできませんでした。横回転にしたり、とめたり、色々な事ができるようになりたいです。

2つ目の課題はレシーブです。今大会、すごくレシーブミスが多くて、そこから流れがかわってしまう場面がよくありました。レシーブをもう少し工夫して、ミスなく確実に返せるようにこれから練習します。あと、ミドル処理も鍛えていきたいと思ひます。



今回タイのジュニアサーキットに参加して色々な事を学びました。生活面では、なかなか口に合う食べ物がなく、最初ほとんど食べられなかった事に苦労しました。言葉も、通じづらくて身ぶり手ぶりで会話が成立する事が今回多かったです。今まで行った海外の中でタイが一番食事に困りました。

試合面では、今回使用球のGボールに対して、慣れるのに時間がかかったり会場の暑さや湿気に対する対応が上手にできませんでした。前から課題にしていた、ループドライブの処理とサービスレシーブの種類が少ないが目立ちました。これからインターハイに向けて、ループドライブの対応とサービスレシーブの種類を増やす事を特に取り組んでいきたいです。そして、どんな場面でも自分を信じて攻撃を出きる様に練習に取り組みたいです。今回の経験をむだにする事なく、しっかり今後に繋げていきたいです。一週間色々ありがとうございました。



明徳義塾高校 井 絢乃

今回は、海外遠征に参加させていただき、誠にありがとうございました。タイは、気温も湿度も日本では経験したことのない程高く、食べ物も、私の口に合わないものが多く、途惑うことが沢山ありましたが、貴重な経験を積むことが出来ました。

あとけっこう言葉も通じなくて大変でしたが、何とかして伝えないといけなかったし、分からないといけなかったので、改めて言葉の大切さを知りました。試合のことは、団体戦のときはみんなと一緒にいるから心強くて自分のプレーができていることが多いと思うけど、シングルスになると、気持ちが弱気になってしまっていて攻められなくなってしまうし、SVのミスが多くておもいきって出せないのもミスせずに良いSVが出せる様にして、もっと攻める練習をしていって連続攻撃していける様にしようと思います。あとメンタルが弱いのもっとプラスに考えていける様にしていきます。



初めての国際大会で、少し緊張しましたが仲間とともに良い結果が残せて良かったです。このような貴重な経験をさせて頂き、本当に感謝しています。ありがとうございました。また、夏には地元でインターハイが開催されるので、この経験を生かして頑張ります。